

【AI買い物実態調査】 AIに相談し後悔した人ほど、AIにもっと任せたい意外な傾向 購入判断を委ねたい50.8%、自動注文使いたい72.4% どちらも後悔していない人より高い

商品比較サービス「マイベスト」の運営をおこなう株式会社マイベスト（本社：東京都中央区、代表取締役 CEO：吉川 徹、以下マイベスト）は、直近6か月以内に買い物で生成AI（以下、AI）を使った全国の20～50代男女863名に「AI時代の買い物に関する調査」を実施しました。2026年4月に実施した調査の第2回です。AIが買い物にどれだけ使われているかは、すでに各所で明らかになってきました。今回は、使った結果どうだったかに注目して調査を実施しました。

■第1回調査結果：<https://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000102.000068497.html>



■調査概要

- ・調査名：AI時代の買い物に関する調査（第2回）
- ・対象：直近6か月以内に買い物でAI(ChatGPT、Geminiなど)を使った全国の20～50代男女863名
- ・方法：インターネット調査（スクリーニング3,000名／本調査863名）
- ・期間：2026年10月16日～19日
- ・実施：株式会社マイベスト

※構成比は小数第2位以下を四捨五入。引用時は「マイベスト調べ」と記載ください

※本調査の回答者の年代構成は20代5.4%、30代13.4%、40代29.9%、50代51.2%

※第2回では、第1回（2026年4月実施、n=300）の結果を受けて設問を見直しています。ほとんどの設問は形式が異なるため単純比較ができません。形式が近い一部のみ、参考値として示しています

※AIの回答が間違っていたかどうかは、回答者ご本人の認識に基づきます

サマリー

01 AIで後悔した人の50.8%が「購入判断をAIに委ねたい」。後悔していない人は24.3%

02 AIで後悔した人の72.4%が「AIの自動注文を使いたい」。後悔していない人は50.9%

03 買い物でAIを使った人の55.3%が、AIの回答の「間違い」に遭遇

04 最も後悔につながった間違いは「仕様やスペックが違っていた」55.7%。最も低い「価格が実際と違っていた」41.7%と14.0ポイント差

05 AIの回答だけで決めた人の後悔率42.2%。自分で追加で調べた人は22.9%

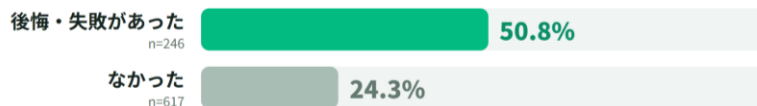
①AIで後悔した人ほど、AIにもっと任せたい傾向

AIで選んだもので後悔・失敗があったかどうかで分けて、今後の意向を見ました。後悔した人の方が、今後も購入判断を委ねたい割合も、自動注文を使いたい割合も高くなっています。

AIで後悔した人ほど、AIにもっと任せたい

AIで選んだもので後悔・失敗があったかどうか別に、今後AIに任せたいと答えた人の割合

最終的な購入判断をAIに委ねたい



AIが自動で商品を選んで注文する機能を使いたい



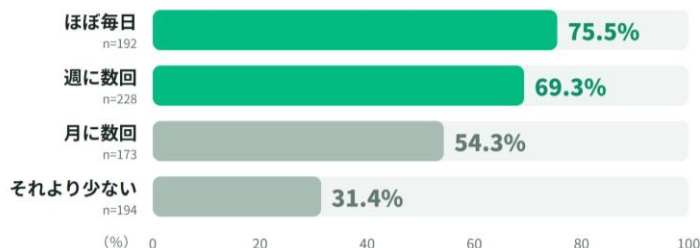
※この関係は相関であり、因果ではありません。AIをよく使う人ほど失敗も多く経験し、同時に自動化にも前向きである、という説明も成り立ちます

②AIをよく使う人ほど、自動化に前向きで自分で確かめていない

買い物でAIを使う頻度ごとに見ると、よく使う人ほど自動注文を使いたいと答えています。「ほぼ毎日」と「それより少ない」では44.1ポイントの差がありました。

AIをよく使う人ほど、買い物の自動化に前向き

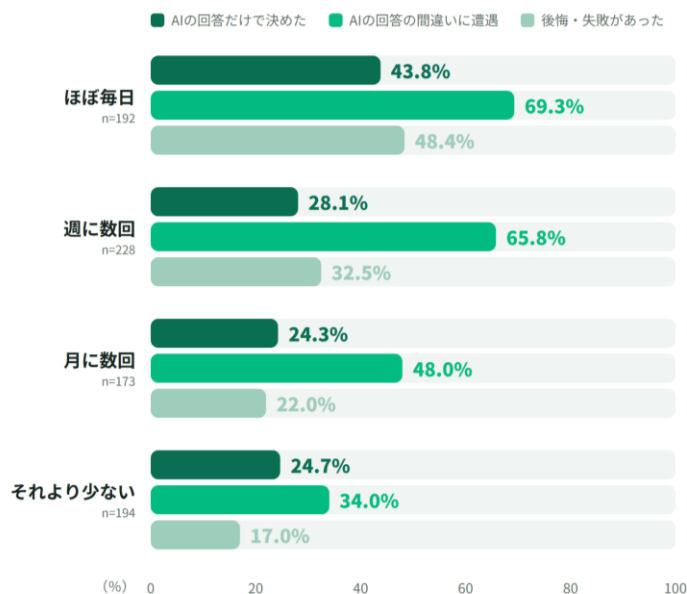
買い物で生成AIを使う頻度（単一回答）別に、AIが自動で商品を選んで注文する機能を使いたいと答えた人の割合。「2〜3か月に1回」（n=76）は母数が小さいため割愛



同じ頻度で見ると、よく使う人ほどAIの回答の間違いにも多く遭遇しています。それでも、自分で確かめずにAIの回答だけで決める割合は高くなっています。

AIをよく使う人ほど、確かめずに購入

買い物で生成AIを使う頻度（単一回答）別に、3つの割合。「2〜3か月に1回」（n=76）は母数が小さいため割愛



AIの回答を疑う気持ちも、半年前より弱まっています。AIの回答を見た後に、自分で追加情報を調べた人に理由を聞くと、「AIの回答に根拠が感じられなかったから」を挙げた人は、第1回31.3%から今回は22.4%へ8.9ポイント減りました。

※使う回数が多いほど間違いに遭遇する機会も増えます。頻度そのものが原因とは限りません

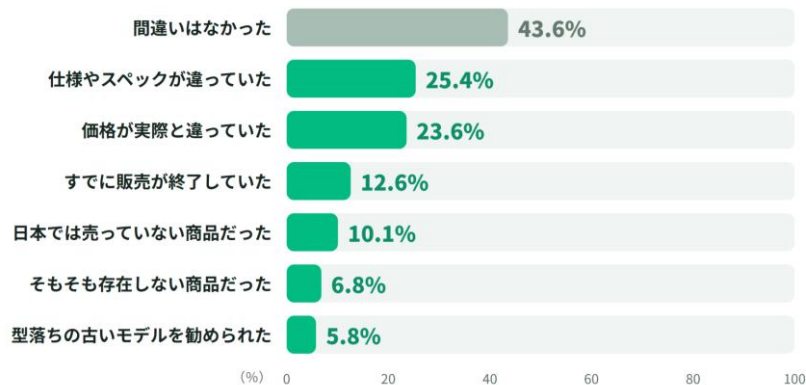
※選択肢の構成が一部異なるため、参考値です

③その一方で、55.3%がAIの回答の間違いに遭遇

55.3%がAIの回答で何らかの間違いを経験していました。

55.3%が、AIの回答の間違いに遭遇している

AIの回答で、実際に間違っていたことはありましたか（複数回答）



第1回調査では、後悔した理由の1位が「AIが推薦した商品の情報自体が間違っていた（存在しない・スペックが違うなど）」33.1%でした。ひとまとめになっていたこの「間違い」を、第2回では上記グラフの6つに分けて聞いています。

④後悔のほとんどは、AIの回答の間違いから生まれている

後悔のほとんどは、AIの回答の間違いから生まれている

AIの回答の間違いに遭遇したかどうか別に見た、AIで選んだもので後悔・失敗があった人の割合



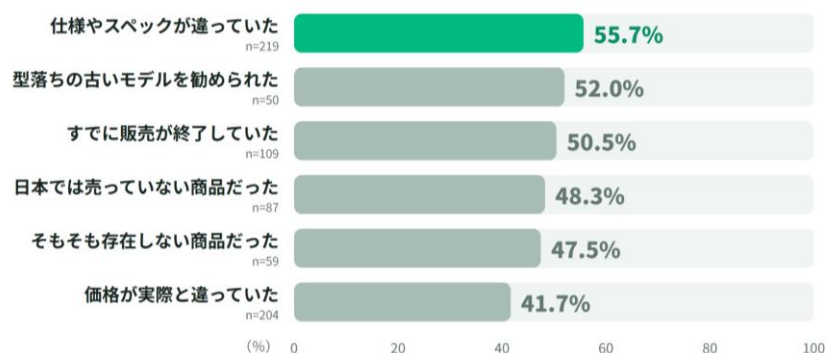
ただし、間違いに遭遇した人でも、後悔したのは半数以下でした。分かれ目は、そのあと自分で調べ直したかどうかです。

⑤最も後悔につながったのは「仕様やスペックの違い」

AIの間違いの種類ごとに後悔率を見ると、最も高いのは「仕様やスペックが違っていた」55.7%、最も低いのは「価格が実際と違っていた」41.7%でした。

最も後悔につながったのは「仕様やスペックの違い」

AIの回答で実際に間違っていたこと（複数回答）別に見た、後悔・失敗があった人の割合



仕様やスペックの違いは、買ったあとに気づきます。価格は買う前に必ず目に入ります。買う前に気づける間違いより、買ったあとに分かる間違いのほうが、後悔につながっています。

⑥AIの回答だけで決めた人の後悔率は、自分で調べ直した人の約1.8倍

「AIの回答だけで決めた」人の割合は29.1%、「AIの回答を見た後に追加で調べた」人の割合は70.9%でした。この2つの間で、後悔率が19.4ポイント開いています。

AIの回答だけで決めた人の後悔率は、 自分で調べ直した人の約1.8倍

AIの回答を見たあと追加で情報を調べたか（単一回答）別に見た、後悔・失敗があった人の割合



「もともと間違いに遭わなかっただけでは」という見方もできます。そこで、間違いに遭遇した人だけで比べたところ、AIの回答だけで決めた人の後悔率は66.9%、追加で調べた人は38.6%。差は28.3ポイントにまで広がりました。

■【考察】なぜ失敗してもAIに任せたいのか

考えられる理由は2つあります。

①**失敗の原因をAIではなく自分の聞き方に求めている可能性**です。「指示が悪かった」と考えれば、次は自分がもっとうまく聞けばいいという結論になります。

②**比較の手間がそれだけ大きい**ということです。買い物でAIを使う人は、調べる負担から解放された経験をしています。一度その楽さを知ると、多少の失敗があっても戻りにくい。

いずれにしても、使うのをやめる方向には向かっていません。だとすれば、任せ方の精度を上げるしかありません。

■ AIに任せる流れは止まらない。失敗・後悔を減らすために自分で確かめる点を1つに絞る

全部を自分で調べ直すのは現実的ではありません。本調査でも、追加で調べた人は70.9%いる一方で、AIをほぼ毎日使う人の43.8%はAIの回答だけで決めています。

確かめる点を1つに絞るなら「仕様とスペック」です。最も後悔につながっている間違いであり、価格のように買う前に必ず目に入るものではないためです。

マイベストは、商品を自社で購入し、同じ条件で比較検証しています。いつ、どの条件で測ったのかも結果と一緒に公開しています。

■株式会社マイベスト

「インターネットを使った最高の選択体験を実現する」をミッションに掲げ、月間ユニークユーザー3,000万人以上が利用する国内最大級の商品比較サービス「マイベスト」を開発・運営しています。徹底した自社検証と専門家の知見にもとづく公平な基準で、商品・サービスのおすすめ情報を提供し、一人ひとりのベストな選択をサポート。現在は、日本以外にも8つの国と地域に展開しており、最高の選択体験を実現し世界を変えたいと考えています。

- ・所在地 : 東京都中央区築地7-17-1住友不動産築地ビル
- ・代表 : 吉川 徹
- ・創業 : 2016年10月
- ・事業内容 : 商品比較サービス「マイベスト」の運営
- ・コーポレートサイト : <https://my-best.com/company/>

